

昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立武蔵野小学校

校長名 大河原 博 公印

令和6年度教育課程について (届)

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記の通りお届けします。
記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標 (重視する「育成を目指す資質・能力」)

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図るとともに、学校・家庭・地域と密接に連携する。ふるさと昭島の自然や文化を愛し、未来社会の変化に対応できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指すために、次の三点を教育目標とする。

○しっかり考える子・・・よく見て、よく聞き、よく考える力を培い、思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども

⇒「問題解決力」

○心やさしい子・・・生命の尊さと人権尊重の精神を学び、感性あふれる豊かな心をもつ子ども

⇒「人間関係形成力」

○つよく元気な子・・・健康、安全に心を配り、すすんで心と体を鍛えることができる子ども

⇒「体力・活力」

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア しっかり考える子「問題解決力」を育成するために

- (ア) 「ICT活用マニュアル」に基づき一人1台のタブレット端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- (イ) 授業力向上アドバイザー事業の学びをつなげるとともに、学力調査の分析に基づいた授業改善推進プランを作成し、授業改善に取り組む。
特に児童自身が課題意識をもって学習できる発問や学びの場、振り返りの充実を図ることで、思考力、判断力、表現力等の向上を図る。
- (ウ) 総合的な学習の時間を中心に、各教科等と関連付けて持続可能な開発目標の学習を推進し、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成する「習得・活用・探求」という学習プロセスの実現を目指す。

イ 心やさしい子「人間関係形成力」を育成するために

- (ア) 教育活動全体を通じた人権教育を推進し人権意識を高め、自他ともに大切にする態度を育成する。その際、体験的な学習を充実させ、児童相互の関わり合う機会を計画的に設定することで、自己肯定感・自己有用感を高め、児童が個々のよさを発揮できるようにする。
- (イ) 集団の一員である自覚と規範意識の育成を図る。学級満足度調査の結果を、予防・開発的に活用し、集団としてまとまりがある学年・学級を形成する。
- (ウ) 学校いじめ基本方針に基づく学校いじめ対策委員会を月に1回程度開催するとともに、「いじめ総合対策」の冊子を活用し、いじめの早期発見、早期対応に努め、様々な課題を抱える児童及び保護者への教育相談体制の充実を図る。

ウ つよく元気な子「体力・活力」を育成するために

- (ア) 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果分析及び「元気アップガイドブック」の活用や体力向上週間の取組等、児童・生徒が健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現に向け基礎的な体力の育成・向上を図る。
- (イ) 家庭と連携して、毎学期の初めに「すまいるカード」に取り組み「グッドモーニング60分」の推進を図ることで、児童の健全な生活習慣の定着を図る。
- (ウ) 感染防止対策の定期的な見直しと実践を行うとともに、健康に関する指導を充実させる。がん教育や薬育を推進し、健康と命の大切さについて、主体的に考える児童の育成を図る。
- (エ) 栄養士と連携し、掲示物や動画等を活用することで食に関する正しい知識や望ましい食習慣の育成を図る。アレルギー研修を年度初めに行うとともに、アレルギー疾患対応マニュアルを全教職員に周知したり定期的に確認したりすることで、食の安全を確保する。

エ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項

- (ア) 特別支援教室と連携し、特別な支援が必要な児童への指導の充実を図る。校内委員会の充実を図り、学校生活支援シート及び個別指導計画を基に、個々の児童の障害の状況に応じたきめ細やかな学習指導・支援体制を整備する。また、「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」に基づき、全ての児童にやさしい学校・学級の実現を図る。
- (イ) 副籍や居住地交流制度を活用し、交流学習を通して相互理解を進め、子ども同士の豊かな関わり合いから心の醸成を図る。
- (ウ) 学校・家庭・地域の連携・支援体制の確立を基に推進する環境教育を中心とした、持続可能な社会づくりに必要な資質・能力の育成を図り、その教育活動や児童の様子を学校だよりやホームページなどを通じて積極的に発信する。
- (エ) キャリア形成と自己実現に向け、キャリア・パスポートの充実を図り、教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を実現する。
- (オ) 教育目標に向かって意欲的に取り組む組織的な基盤を醸成する。PDCAと職層制度を活用した校務分掌の運営、担当者の創意・工夫のある起案を実施する。教員の「抱え込み」を排除し、チームによる問題解決を行い、教育活動の活性化、指導の充実を図る。
- (カ) 保護者や地域住民等が学校運営に参画し、連携して取り組めるよう地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの推進を図る。
- (キ) 義務教育を円滑にスタートさせるため就学前教育(幼・保)との連携を図り、義務教育9年間を見通した育てたい児童・生徒像に基づいた小・中学校の連携を更に充実させる。